

大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOB A）

第2回藻場再生・創出・技術実証ワーキング資料

兵庫県版 「アマモ場再生・創出ガイドブック」の作成



兵庫県環境部水大気課

ひょうごブルーカーボン連絡会議

水質浄化及び物質循環の機能を有し、多様な生物の生息・生育する場やブルーカーボンとして重要である藻場等の保全・再生及び創出を図り、「豊かで美しいひょうごの里海」を実現する。

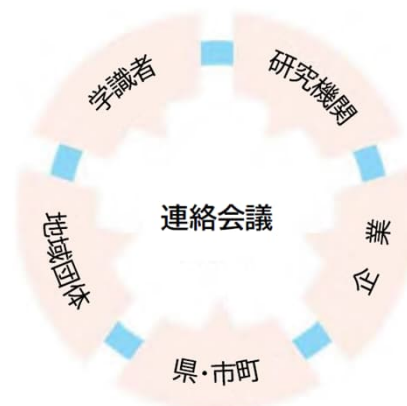
令和5年度の課題整理を踏まえ、藻場再生・創出手法、関係者との合意形成方法、法的手続き、簡易な調査化手法等を取りまとめたガイドブックを作成しHP等へ公開し、企業や地域団体でのさらなる取組促進を図る。

< 連絡会議の構成 >

区分	構成員候補
学識者	神戸大学特命教授 川井 浩史
	国立研究開発法人水産研究・教育機構 島袋 寛盛
	徳島大学客員教授 中西 敬
地域団体	須磨里海の会
	相生湾自然再生会議
	アマモ種子バンク
	江井ヶ島漁業協同組合
企業	兵庫県環境保全管理者協会
研究機関	兵庫県立水産技術センター
	兵庫県環境研究センター
国	環境省近畿地方環境事務所
	国土交通省近畿地方整備局
行政	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、 明石市、加古川市、高砂市、播磨町
	姫路市、相生市、たつの市、赤穂市
	洲本市、南あわじ市、淡路市
	兵庫県漁業協同組合連合会
関係機関	大阪湾広域臨海環境整備センター
	(公財)ひょうご環境創造協会
事務局	兵庫県・(公社)瀬戸内海環境保全協会

< 令和6年度スケジュール >

- 9月** 第1回連絡会議開催
藻場再生創出事業支援企業等での事例の紹介
ガイドブック骨子(案)の検討
- 2月頃** 第2回連絡会議開催
ガイドブック(案)の策定 企業等での先進事例の紹介



豊かな海を育む「アマモ」

兵庫県版「アマモ場再生・創出ガイドブック」の作成

「ひょうごブルーカーボン連絡会議」にて整理した県内での藻場再生・創出における課題などを踏まえ、県内でのさらなるブルーカーボンの取組促進を図る。

- ・ 県内でアマモ場の再生・創出活動を始めようと考えている漁業者や市民の方などに向けて、アマモ場再生・創出の進め方や事例などを整理
- ・ 県内でアマモ場再生・創出に取り組む団体にヒアリングし、体験談などを交えた実践事例集を整理



目次

はじめに.....	1
1 アマモ場とは.....	2
1.1 アマモの生態.....	2
1.2 アマモ場の役割.....	3
1.3 兵庫県内のアマモ場.....	4
2 アマモ場再生・創出の進め方.....	7
2.1 アマモ場再生・創出とは.....	7
2.2 候補地の状況を調べよう(資料収集、検討).....	9
2.3 アマモ場再生・創出について考えよう.....	14
2.4 計画を立てよう(Plan).....	16
2.5 実行しよう(Do).....	29
2.6 評価・検証し、改善しよう(Check, Action).....	31
3 アマモ場再生・創出に関わる各種窓口など.....	38
3.1 アマモ場再生・創出活動の相談窓口.....	38
3.2 海岸保全活動団体(環境教育含む)一覧・活動区域.....	39
4 アマモ場再生・創出事例など.....	42
4.1 先進的取組事例.....	42
4.2 沿岸域における自然共生サイトの認証事例.....	44
5 兵庫県におけるアマモ場再生・創出の実践事例集.....	46
参考情報.....	48
資料編.....	資-1

兵庫県版「アマモ場再生・創出ガイドブック」の作成

「ひょうごブルーカーボン連絡会議」にて整理した県内での藻場再生・創出における課題などを踏まえ、県内でのさらなるブルーカーボンの取組促進を図る。

- ・ 初心者にもわかりやすいよう「アマモの生態」や「アマモ場の役割」などアマモに関する基礎情報を記載
- ・ 候補地が適地であるか容易に判別できるようフローチャートを記載
- ・ 専門用語には注釈を追加

1 アマモ場とは

1.1 アマモの生態

アマモは海草(うみくさ)と呼ばれる植物で、胞子等で繁殖する海藻とは異なり、花を咲かせて種子をつくります。また、水深が浅く、光のよく届く砂地や泥地を好みます。

アマモは、「種子」と「地下茎」の2つの方法で繁殖します。「種子」による増え方では、春から初夏にかけて種子をつくり、その種子は泥の中で夏を越し、秋から冬に発芽します。発芽後は冬から春にかけて生長し、再び種子をつくり、その後、葉や地下茎は枯れます。一方、「地下茎」による増え方では、秋から春にかけて地下茎が枝分かれして葉を増やし、夏になると多くの葉が枯れますが、地下茎は生き残り、秋になるとそこから再び葉が伸びてきます。



アマモ類の自然再生ガイドライン(水産庁・マリノフォーラム 21, H19)、アマモ場再生ハンドブック(三重県水産研究所, H23)を参考に作成



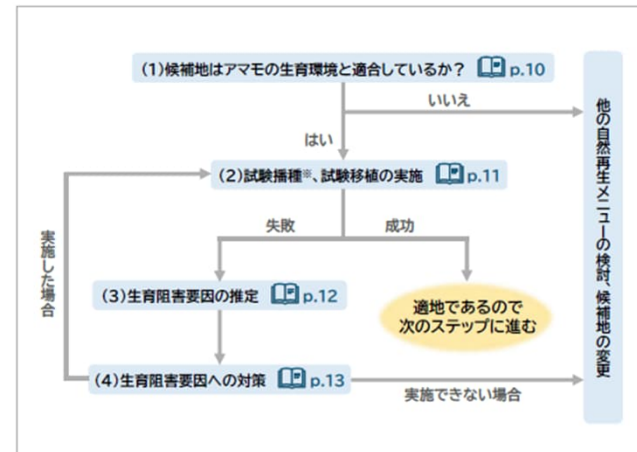
種子で増えるアマモと、地下茎で増えるアマモがあるんだね！

2.2 候補地の状況を調べよう(資料収集、検討)

候補地がアマモの生育に適しているのか、事前に資料を集めたり、現地で実際に調べたことを専門家の指導などを受けながら整理・検討してみましょう。

候補地の状況の簡易な調べ方の一例を下図に示します。また、次のページ以降に各ステップの具体的な手法を示しています。

より詳細な調べ方については、「アマモ類の自然再生ガイドライン」(水産庁・マリノフォーラム 21, H19) p.3-5~などに記載があります。



※播種:種をまくこと

候補地の状況の簡易な調査フロー



過去にその場所にアマモ場があったかどうか、判断材料の1つになるよ！

- ・ 令和7年3月までに策定予定
- ・ 令和7年度は、兵庫県版「海藻藻場再生・ガイドブック」を策定予定